

平成 25 年 第 2 回日本細菌学会関東支部評議員会議事録

(平成 25 年 10 月 31 日 (木) 13:00~13:30 第 96 回日本細菌学会関東支部総会において)

* 第 96 回日本細菌学会関東支部総会・会務報告 (11 月 1 日 13:00~13:50) での
合意・了承内容を含む。(開催会場は東京ドームホテル・42F シリウス)

1) 第 96 回日本細菌学会関東支部総会 開催状況

第 96 回日本細菌学会関東支部総会の総会長である関水久先生(東京大学大学院薬学系研究科 微生物薬品化学教室 教授)から開催状況が報告された。

(以下に概略を記載)

本支部総会は第 62 回日本感染症学会東日本地方会学術総会(会長:松本哲哉先生、東京医科大学微生物講座) / 第 60 回日本化学療法学会東日本支部総会(会長:草地信也先生、東邦大学医療センター大橋病院外科)・合同学会との同時期開催として開催されている。期日は 2013 年 10 月 31 日(木)と 11 月 1 日(金)の両日である。合同学会との合同シンポジウムおよび細菌学会としての招請講演を企画している。一般演題では多くの登録があった。評議員および会員の先生方にお礼申し上げる。

2) 会計報告について

平成 24 年度会期会計報告(案)、平成 25 年会期会計途中報告(案)、平成 26 年会期予算(案)が支部長から報告され、原案が了承された。

* 支部総会・会務報告で原案が了承された。

(詳細な金額は省略するが、概要を下記する)

日本細菌学会関東支部の収入は本部からの補助金および支部会費より成り立っている。本部からの補助金は各支部 10 万円であり、支部会費は 1000 円である。関東支部会費が年々減少しており、現在は訳 90 万円程度であり、関東支部会員が減少していることは明らかである。今後、若手研究者のインターラボセミナーや講演会を通じて関東支部活動の活発化が重要との認識で一致した。支出では支部総会への支出(70 万円)が主要である。その他にインターラボセミナーや講演会への支出を予定していたが、このところ開催できていない。次年度への繰り越し学が増加しており、関東支部活動の活発化のため、積極的に上記を企画することとなった。

3) 第 97 回日本細菌学会関東支部総会(2014 年度)の総会長について

第 95 回日本細菌学会関東支部総会(平成 24 年度)での評議員会および支部総会で決定する予定であったが、調整ができなかった。平成 25 年第 1 回評議員会で討議され、千葉大真菌学センター病原機能分野教授 川本 進先生に内定した。今回の平成 25 年第 2 回評議員会でも内定が確認され、支部総会で推薦することとなった。

* 支部総会で了承され、川本 進先生が第 97 回日本細菌学会関東支部総会(2014 年度)の総会長に決定した。第 97 回日本細菌学会関東支部総会(2014 年度)は 2014 年 10 月末に、2013 年と同様に合同学会との同時期開催として、東京ドームホテルで開催される予定となっている。

4) 第 98 回日本細菌学会関東支部総会(2015 年度)の総会長について

今回の評議員会で相談が行われ、石原 和幸先生(東京歯科大学 微生物学講座 教授)を支部総会において推薦することとなった。

*支部総会です承され、石原 和幸先生が第 98 回日本細菌学会関東支部総会(2015 年度)の総会長に決定した。

5) 委員会報告など

予算には計上されているが最近では講演会が開催されていない。大西 真・学術集会委員長を中心に企画を検討することとなった。

現在はインターラボセミナーを募集中であるが、正式な応募はまだない。高屋 明子先生(活性化委員会、千葉大・薬・微生物薬品化学)と松本 靖彦先生(東京大・薬・微生物薬品化学)を中心に早急に企画して頂くこととなった。

関東支部会のホームページは新しくなり、見やすくなった。しかし、会員に役立つ情報発信がないので活性化につながらないとの意見があった。今後は、以前の支部会ニュースのような解説・研究紹介の記事を載せるなど情報発信を行い、活性化に寄与できるように行動することとした。

関東支部においては支部評議員の投票などの会員への連絡は主にメールにより行われている。編集委員会の石原 和幸先生からは関東支部会員名簿(E-mail を含む)が古くなっているとの指摘があった。関東支部会にとっては会員名簿の更新は必須であり、細菌学会本部と新規名簿入手について相談することとなった。